

## 留学先からの報告

2018/12/05 Scripps Research

荻田譲

今月頭に全ての上級生が研究室を去り、正式に研究室の最上級生になりました。研究室を引っ張ってゆく学年として頑張っておきたいとボスにも釘を刺され、成長の実感があまりないまま責任だけが重くなり、なんとも妙な感覚です。

また8月に Scripps はリブランディングを経て The Scripps Research Institute から Scripps Research になりました。実生活に特に変化はありません。もし報告書右上の所属名が前回までと異なることに気づいた方がいたならばもっと有効な時間の使い方を考えていただいた方が良くと思います。

10月には大津会議フェローに選出していただき、琵琶湖プリンスホテルで研究実績とオリジナル研究プロポーザルをしてきました。組織員の丸岡先生、山本先生、柴崎先生、若手の先生方、同期のフェロー達と化学と人生について議論し、楽しい時間を過ごすことができました。前二日は京都に早入りし、観光(サボリ)してきました。一日目はまず京都二郎で幸せをチャージしました。その後京都貴船-鞍馬のハイキングに行こうとしたのですが、夏の台風の影響の爪痕がまだ色濃く残っておりコースそのものが閉鎖されていました。代わりに大文字山に登りましたが、ここでも経路のいくつかが閉鎖されており危うく遭難しかけました。ハイキングには水を十分持って二人以上で行くべきです。二日目はうまいものを食べたり青蓮院に行ったりと市内をぶらぶらしてのんびり過ごしました。

肝心のプロジェクトはあまり進んでいません。形式合成まであと3工程というところまでたどり着いたのですが、原料が TLC ですら何も見えないほどの量になってしまい、前進を断念しました。基質がなくなる間近に原料上げも再開しましたが、合成全体が30工程以上あるので非常に時間がかかります。また、以前は基質の量が少なく、後半の反応は適切な等量と濃度で行うことができなかつたため、余っていた原料は経路の最適化に費やしました。共同研究先が原料を送ってくれる予定なのですがそれも遅れており、年内に少量でも届くことを祈っています。次回原料が届いた暁には十二分な量の最先端基質を合成できるはずですが。

このように本命プロジェクトは一時停止してしまつたので、最近では未完のまま学生が卒業して誰も引き取り手のない別の分子の合成をやっています。同じような反応ばかりで飽きがきていたのでいい気晴らしになっています。

そろそろ卒業後の進路も考えなくてはならない時期ですが、最近では自分が本当に有機化学をしたいのか、有機化学で食っていけるのか、そもそも人生に何を求めているのかわからなくなつてきています。Nature Digest という平易に書かれた論文要約集のようなものを購読しているのですが、どの記事も生物、宇宙、AIの話ばかりで有機化学の記事は全く出てきません。自分のフィードに上ってくる有機化学系の論文を眺めていても、どれも重箱の隅をつついたような反応か既知反応/合成の焼き直しのような論文ばかり

です。これらは有機化学は既に成熟し、学術分野としての未来がないことを示しているような気がしています。逆に言えばハードウェアの発達によって解決される問題は多々存在し、現に最近では工業化学、ケモインフォマティクスの論文がトップジャーナルに散見されます。しかしそれらの新規性は化学的 Science ではなく Engineering です。こういった AI やハイスループット手法の論文は一過性の流行で、すぐにハードウェアの発達を待つ飽和状態に落ち着くと思います。しかしそこで再び合成化学に学術的意味が付与されるわけではありません。うちのボスは合成化学の力を信じておりますが、それは古典的合成化学発達の時代を生き抜き、貢献してきた側の人たちの考え方だと思います。自分もこういった先人達の業績に魅せられてこの分野に入った人間なので、それが時代の流れにそぐわないのであればこの分野にとどまる必要性にも疑問を感じます。このままズルズルとポストドクをし、合成化学の分野に身をやつすことになりそうな気がしていますが、一度きりの人生やるには何か意義のあることか自分の好きなことをやりたいです。分野を完全に変えるのならば早いほうが良いという焦燥感の元、なかなか答えを出せない問いに苦悩しています。